

新しいスタートラインが示された

[評者]坂本すが NTT 東日本関東病院看護部長

医療記録が変わる！ 決定版 クリニカルパス

副島秀久 監修／済生会熊本病院パスプロジェクト 編集

A4 判, 144 ページ
定価 3360 円(本体 3200 円+税 5%)
医学書院 TEL. 03-3817-5657



済生会熊本病院のクリニカルパス(以下、パス)に関する活動はこれまでも日本全国から注目を浴びてきたが、そのパス・マネジメントの新しい手法がついに本書『医療記録が変わる！ 決定版クリニカルパス』という形でまとめられた。本書は、わが国における、パスに関するさまざまな活動の新しいスタートラインとなるものである。

■「アウトカム志向のパス」の一步先へ

パスは本質的には質向上の手法である。その方法としてアウトカムを指標に、スムーズにいかない状況の分析と対処、そして改善のプロセスを経て、マネジメントしていくことが重要となる。つまり、根拠(EBM)に基づいた医療をいかに導入するか、つくり上げるかにかかっている。

わが国の、これまでのパスの発展過程のなかで注目すべきことの1つに、アウトカムの設定がある。アウトカムの考えが明示されることにより、目標とする退院時の患者の状態が明確になる。そのことでまた、ケア途中に必要なチェックポイントが明らかになるのである。そして在院日数が改めて検討され、バリエアンスの概念が明確になり、パス作成における各専門職の議論が深められるのである。

多くの病院では、すでにパスへのアウトカム設定が行なわれつつあるが、最も大きな問題は、アウトカム設定されたパス(いわゆるアウトカム志向のパス)をいかにマネジメントするか、いかにマネジメントして結果を示すか、いかにしてより高い医療の質を獲得するか、そのためのマネジメント・システムをいかに構築するかである。

本書では、済生会熊本病院が実践している、パ

スにおけるアウトカム設定のシステム化、記録システムの構築、バリエアンスの処理、パス担当者の設置など、アウトカム設定パスに関する最先端のマネジメント・システム構築のポイントが明瞭に紹介されている。

また、そのようなシステムを考える前提として、アウトカムを介入のアウトカム(医療者の仕事の部分のアウトカム)と患者アウトカムに大別し、これらが達成できなければ、バリエアンスとするという明瞭な定義、設定の仕方についても言及している。

バリエアンスの発生例として、検査技師の人数が少ないため、検査を受ける患者の人数枠をあらかじめ決めざるを得ないことがある。そのため、パス設定日に検査できなかった患者がいる。それがバリエアンスである。このような患者にいつでも検査ができる体制にするには検査技師を増やすしかないが、人件費のことを考えるとそう簡単ではない。

■より良い医療に向けたスタートライン

パスは、その病院のケアに対する考え方、ケアの標準化を意味するものであると思う。本書のところどころに紹介されている独創的な工夫や概念整理、そして、『決定版クリニカルパス』という表題は、済生会熊本病院という医療の質を追求する医療専門職集団の意気込みを強く感じる。

さあ、ここに新しいスタートラインが示された。より良い医療の質、より良い医療活動に向けての新しいスタートラインである。われわれも負けずにスタートしよう。